

第13回 町長定例記者会見

- 開催日時 平成29年6月16日（金）午前10時～
- 開催場所 遠軽町役場2階応接室
- 記者数 6人

報道機関の皆様におかれましては、日頃より町政など地域の情報を町民にお届けいただきましてありがとうございます。心からお礼を申し上げるところでございます。

それでは、今回の議題についてご説明申し上げます。

■平成29年第4回遠軽町議会（定例会）に提出する案件から

・補正予算について

本議会に、丸瀬布上武利地区の森林公園いこいの森における災害復旧事業費と、遊具施設等の再整備に伴う事業費を計上しております。

この、いこいの森は、例年5万人を超える多くの家族連れなどが訪れる道内屈指のキャンプ場を有しました人気スポットであり、各種遊具なども設置しておりましたが、昨年8月に北海道を襲った台風の影響により、甚大な、壊滅的な被害を受けたところでございます。

災害復旧事業の主な内容といたしまして、キャンプサイトにおいて流出したバンガローの移設・補修、通路や芝の復旧を実施するもので、年度内の完成を予定しております。

遊具施設等再整備事業の主な内容といたしまして、遊具施設エリアの敷地造成、給排水施設整備、電気施設整備を第Ⅰ期工事として年度内の完成を目指し、ゴーカートコース、ローラースケート場、自転車コース等の造成および遊具施設の整備等を第Ⅱ期工事として、事業費を来年度に繰り越し、来年の夏休み前の完成を予定しております。来年の夏にはまた多くのお客様に喜んでいただける施設となるよう事業を進めてまいります。

なお、この事業に先立ちまして、被災により運行を休止しておりました森林鉄道蒸気機関車・雨宮21号は、2月から着手しておりました軌道復旧工事が4月下旬に完成しまして、ゴールデンウィークから運行を再開しております。この軌道の復旧にあたっては、関係各位のご尽力により予定工期より1か月ほど早く完成し、今年度のいこいの森開園に合わせて全線復旧に至りました。

全国のいこいの森を愛する皆様から、ご寄附等のご支援もいただいておりますことをご報告させていただきます。合計で約760万円のご寄附をいただいているところでございます。

■丸瀬布厚生病院の無床診療所への転換について

丸瀬布地域の地域医療を担っております、丸瀬布厚生病院につきまして、平成30年5月まで任期がありました前平山院長から、本年3月31日付の辞職届が提出された旨、2月に北海道厚生連から町に連絡がございました。町といたしましては、切れ目のない医療体制の維持を北海道厚生連に要請し、4月1日から中標津町立病院の院長であった長渕医師が赴任して、現在、診療にあたっていただいております。

また、平成30年4月から丸瀬布厚生病院を無床診療所へ転換するという旨の通知を受けましたが、5月30日の北海道厚生連理事会におきまして、入院患者の減少等による経営状況の悪化と常勤医の複数確保が厳しい状況にあることから、無床診療所への転換時期を早めるのが最も効果的であるという経営対策を決定されました。7月いっぱい入院病床機能を廃止いたしまして、8月1日から「まるせっぷ厚生クリニック」として無床診療所への転換を実施するという決定がされたところでございます。

町といたしましては、北海道厚生連に対して、外来機能の維持や入院患者の対応及び従業員の雇用の確保等について、適切に行われるよう要望をしまいたいと考えておりますし、すでにそういった要望もしたところでございます。

■ JR北海道「JR単独では維持することが困難な線区」について

昨年11月にJR北海道が発表しました「JR単独では維持することが困難な線区」について、オホーツク圏活性化期成会の各部会での中間報告がまとまり、期成会としての今後の進め方を確認いたしましたのでご報告いたします。

まず、中間報告の概要ですが、石北本線がどういった位置づけであるかを確認し、国・道・市町村・JR北海道それぞれの役割を明確にするとともに、石北本線の現状分析と課題整理を行い、国に求める支援とJR北海道に対して地元自治体としてできる支援を具体的に検討していくこととしております。

これらを受けまして、期成会といたしましては、上川地方総合開発期成会と合同で、石北本線の維持・存続のため、JR北海道との協議に入ることを確認しております。

また、石北本線・宗谷線・富良野線・根室線で、JR利用実態調査を年4回ほど開催し、利用促進策などについて協議していくこととしております。

■ (仮称) えんがる町民センターについて

現在、建設に向けて準備を進めている(仮称)えんがる町民センターにつきましては、町民の皆さんの意見を反映させるため、昨年12月に建設検討協議会を設置し、より良い施設となるよう議論を行っていただいております。

中でもメインホールにつきましては、視認性や快適性を考慮して、座席を既製品では最大の540ミリメートルの幅で、前後にも余裕を持たせ、800席相当の容積で600席程度のホールとし、建物の配置もJR遠軽駅側としていく、などの方向性が示されております。これは住民等の建設検討協議会の中で方向性が示されております。今後は、施設の詳細と管理運営について作業部会を設置し、さらに具体的な検討を開始しております。

なお、今月から旧中央病院の解体工事が始まりました。工事は来年3月までを予定しております。この間、周辺を通行の際は十分注意をいただきたいと思っております。

■ 遠軽IC道の駅について

旭川紋別自動車道の延伸に伴う、遠軽ICの設置に合わせた道の駅の整備につきましては、3月に実施設計が完了し、今年度は大型車庫を建設いたします。平成30年度からは本体の建設に着手し、平成31年度にはスキー場の営業に合わせたプレオープンができるよう、検討協議会で議論をいただきながら準備を進めているところであります。

この道の駅の運営の核ともいえる責任者となる、駅長の候補者については公募することとして、7月頃から募集を開始した中で選考を進めてまいります。

オホーツクの玄関口として、また、地元遠軽町民に親しまれる場として、この施設を末永く多くの人で賑わうようなものとしていただくために、全国から意欲のある方の応募を期待しているところであります。

なお、募集内容の詳細は現在、検討中であります。

■ 災害対策について

7月4日に遠軽町災害対策本部図上訓練を行います。この訓練は、陸上自衛隊や警察署、網走開発建設部などの関係機関のご協力をいただき、情報伝達や連携、それぞれの役割分担を確認するため、2年前から実施しております。

また、9月には2年に1回実施している、遠軽町総合防災訓練を予定しており、災害が発生した際の心構えや迅速な対応など、関係機関や町民の皆さんとともに、防災意識の醸成を図っていきたいと考えております。

近年、未曾有の災害が全国各地で発生しております。遠軽町におきましても、台風や暴風雪による災害が発生しているところであり、今後とも、こういった訓練を通して災害に強いまちづくりを進めてまいります。

■えんがる球技場について

町内福路地区に整備した人工芝生の屋外運動施設「えんがる球技場」の供用を開始し、5月14日に「オープン記念式」を実施いたしました。

また、オープン記念事業といたしまして、同日には遠軽ラグビー協会主催による「遠軽ラグビーまつり」が、翌週には遠軽サッカー協会主催による「町民サッカーフェスティバル」が開催され、多くの町民の皆様にも人工芝生グラウンドでのスポーツを楽しんでいただきました。

中でも、遠軽ラグビーまつりにはゲストとして、昨年町内で初めて合宿を行った女子ラグビーチーム「三重パールズ」のコーチとして来町し、本町の児童・生徒への指導も行っていただいた元日本代表の大西将太郎さんや、6年前から町内で合宿を行っております、全日本の1部校であります拓殖大学ラグビー部の遠藤隆夫監督、高校やU-20など各世代の日本代表に選出されまして、拓殖大学卒業後はホンダヒート、このホンダヒートも昨年まで遠軽で合宿を行っていただきましたけれど、そこに所属しているグ・ジオンさんにゲストとしてお越しいただいております。グ選手につきましては、スーパーラグビーの日本チーム、サンウルブズのメンバーにもなっております、世界で活躍している選手でございます。

この球技場の供用開始につきましては、学校における部活動、少年団や一般のスポーツ、サークル活動など、町内で活発に行われているスポーツ活動を底上げし、新たなレクリエーションスポーツの展開も期待するところであります。

さらに、雨天時でもコンディションに影響がなく、維持管理にかかるコストも低く抑えることができるため、既存の天然芝生施設と併用することで、利用環境が整えられることとなります。

町では、各種団体と連携して合宿誘致事業を進めておりまして、これまでも多くの団体、選手が合宿に訪れております。これからの季節、本格的な夏の合宿シーズンに向けて、この球技場と既存の施設を活用することで、より充実した環境で選手を迎え、遠軽高校を中心とした、各学校の児童生徒との交流による教育活動のさらなる推進に期待するところであります。